

平成 29 年度新規採用職員に対するアンケート調査結果

1. 目的

民間企業の採用拡大や人手不足の雇用環境など、本県の採用を取り巻く環境は依然厳しい状況が続くと予想されることから、今後の人材確保策に反映させるため、新規採用職員に対して、志望動機や公務に就くにあたっての就業意識などについてのアンケート調査を実施した。

2. 調査概要

(1) 調査対象 平成 29 年度新規採用職員

(2) 回答者数 142 人 (男性 81、女性 61)

内訳：行政 A (大卒程度)	110 人 (事務 67、技術 38、無回答 5)
資格免許職	5 人
行政 B (高卒程度)	7 人 (事務 7)
経験者	12 人 (事務 5、技術 7)
選考	8 人

(3) 調査期間 平成 29 年 11 月 13～16 日、27 日～30 日

3. 調査結果の主なポイント

- 公務員を目指した動機は「地元で貢献できる」が 5 割を超え、地元志向を反映
- 人物重視の試験制度を「知っていた」、面接の回数は「現状どおりでいい」がともに 9 割
- 採用試験情報は「県のホームページ」から得た者が 7 割
- 働いてみて、7 割の者が「やりがいがある」と感じている。
- 入庁前後でのイメージの変化は「思ったより業務量が多い」旨の回答が多数
- 自身が描くキャリアについて「課長(本庁)、所長(地方)などの所属長」以上の昇進を望む者が 3 割
- 「働きがい」を高める方策は「良好な人間関係の構築」が 6 割
- 人材確保の取組は「職場全体の超過勤務の縮減を図ること」が 6 割

4. 調査の活用方法

本調査の結果は、試験制度の見直しや採用活動など、今後の人材確保策に反映させるほか、人材育成や職場づくりなど人事管理の参考資料として活用できるよう、任命権者にも情報提供する。

5. 結果概要

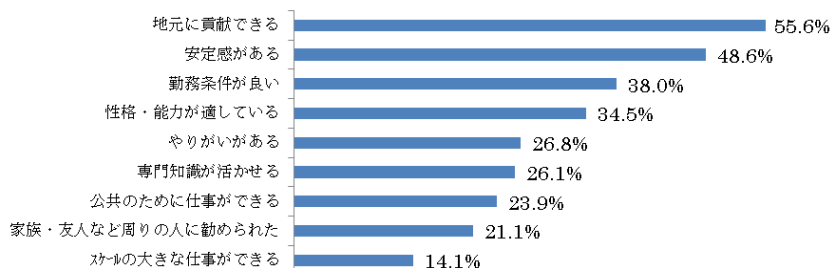
別紙「調査結果の概要」のとおり

調査結果の概要

(1) 志望動機・試験制度

- ① 公務員を目指した動機は「地元で貢献できる」が5割を超え、地元志向を反映
志望動機は、「地元で貢献できる」が6割弱。「安定感がある」や「勤務条件が良い」との理由も上位を占め、現実志向が伺える。

問 公務員を志望した理由は何ですか。(3つ選択)



【国家公務員の意識】

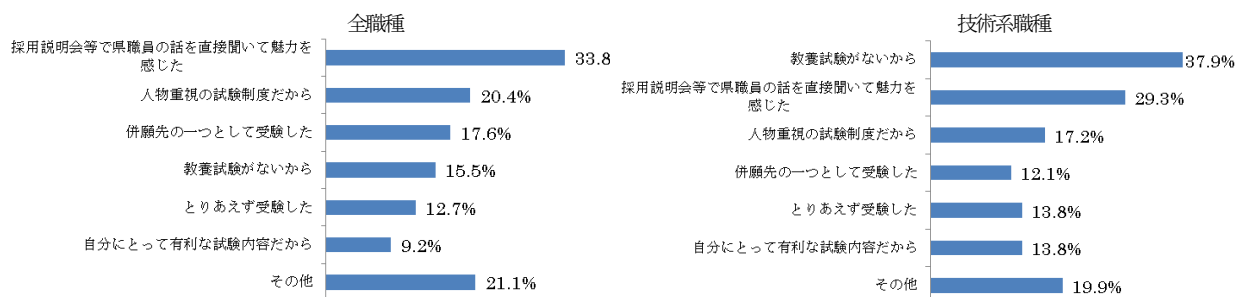
「仕事にやりがいがある」が67.6%、「公共のために仕事ができる」が65.6%で上位であり、「堅実で生活が安定している」が10.4%と最下位。

(平成29年4月人事院実施の国家公務員総合職等の新人職員へのアンケート(以下同様))

- ② 本県を受験した理由は「採用説明会等で直接話を聞いたから」が3割を占める。

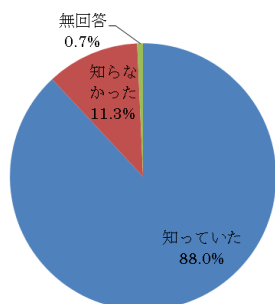
本県を受験理由は、「採用説明会等で県職員の話をして魅力を感じた」が3割、「人物重視の試験制度だから」が2割。技術系職種に限れば、「教養試験がないから」が4割で1位となっており、試験制度の内容が受験を後押しする結果となっている。

問 公務員の中でも特に本県を受験した理由を教えてください。(複数回答可)



- ③ 人物重視の試験制度を「知っていた」が9割で、本県試験制度の特色が広く浸透
人物重視の試験制度について、「知っていた」が9割で、定着していると考えられる。

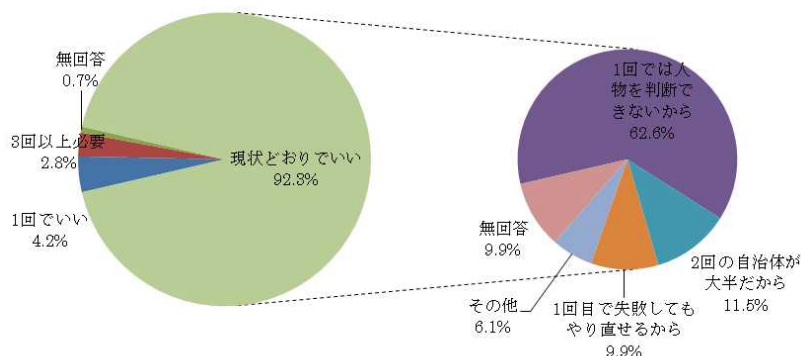
問 県では人物重視の試験を実施していますが、そのことを知っていましたか。



④ 面接の回数は「現状どおりでいい」が9割を超える。

面接の回数は、「現状どおりでいい」が9割。その理由として、「1回では人物を判断できないから」との回答が6割で、肯定的に捉えている。

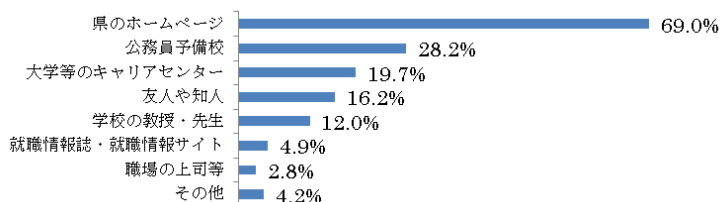
問 面接回数についてどう思いますか。



⑤ 採用試験情報は「県のホームページ」から得た者が7割

採用試験情報は、「県のホームページ」から得た者が7割であり、2位の「公務員予備校」との回答と2倍以上の開きがある。

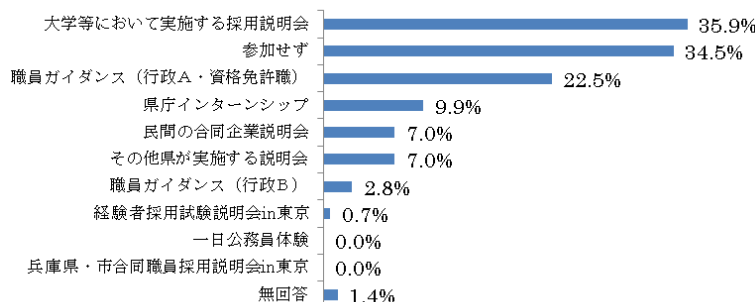
問 採用試験情報をどのようにして得ましたか。(複数選択可)



⑥ 県が実施した説明会では、「大学等での採用説明会」への参加者が3割で最多

説明会は、「大学等において実施する採用説明会」に参加した者が3割超、「職員ガイダンス」が2割となっている一方、「参加せず」の回答も3割を超えている。

問 県(人事委員会等)が実施する説明会へ参加したものはありますか。(複数選択可)

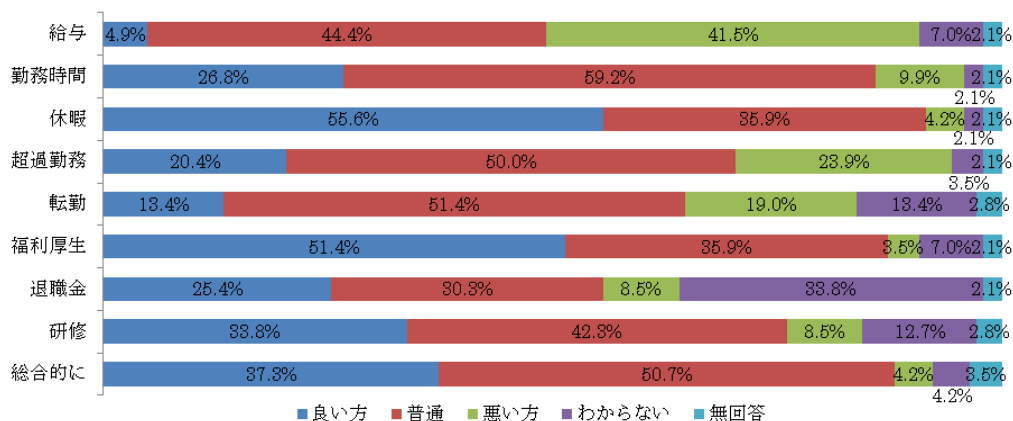


(2) 業務・職場環境

① 勤務条件は他と比べて全体的に「良い」と感じる者が4割

勤務条件は、「休暇」、「福利厚生」は「良い方」との回答が5割を超え、「給与」は4割が「悪い方」と回答。結果として勤務条件を総合的に見ると、「良い方」との回答が4割となっている。

問 県の勤務条件は、他に検討した就職先と比べてどのように思いますか。また、経験者の方は以前の職場と比べてどのように思いますか。



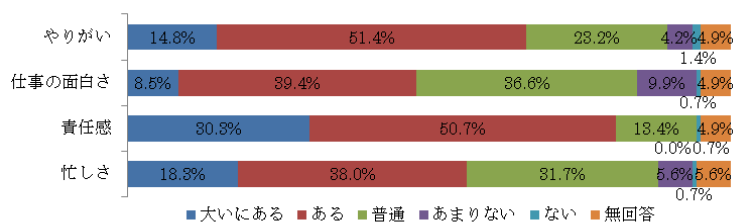
② 働いてみて、7割の者が「やりがいがある」と感じている。

「やりがい」が、「ある」、「大いにある」との回答が7割、「責任感」が「ある」、「大いにある」との回答が8割。

一方、「仕事の面白さ」は、「面白い」、「非常に面白い」との回答が5割弱となっており、1割の者が「あまり面白くない」、「面白くない」と感じている。

「忙しさ」は、「忙しい」、「非常に忙しい」との回答は6割であり、自由意見でも、「1年目の職員が捌ききれぬ業務量・内容ではない」、「ワークライフバランスを本当に意識しているのか疑問を持った」など、忙しさについての記載が多い。

問 県職員として働いてみてどのように感じましたか。

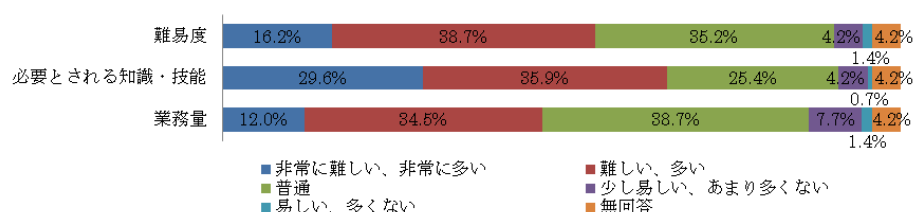


③ 担当業務は、過半数が「難しい」、「必要とする知識・技能が多い」、4割の者が「業務量が多い」と感じている。

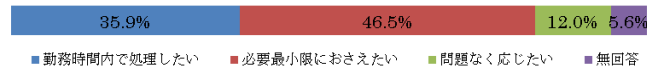
「難易度」は、「難しい」、「非常に難しい」との回答が5割を超え、「必要とされる知識・技能」は、「多い」、「非常に多い」との回答が6割。「業務量」についても、「多い」、「非常に多い」との回答が4割を超えている。

超過勤務については、「勤務時間内で処理したい」、「必要最小限におさえたい」との回答が8割。超過勤務時間は、3割の者が「多い」、「非常に多い」と感じている。

問 現在あなたが担当している業務について、どのように感じていますか。



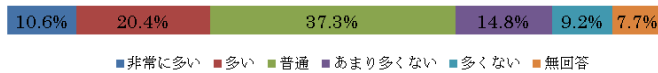
問 超過勤務についてどのように思いますか。



【国家公務員の意識】

「勤務時間内で処理したい」は19.8%、「必要最小限におさえたい」は65.5%、「問題なく応じたい」は13.7%。

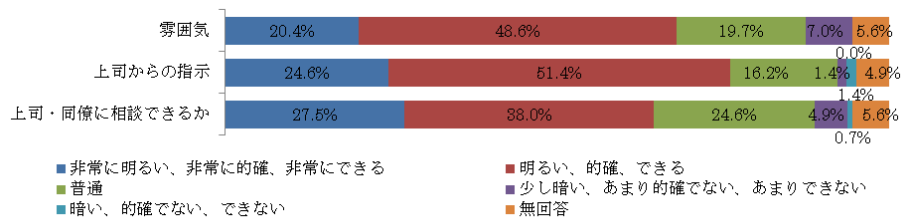
問 超過勤務時間はどのように感じていますか。



④ 職場の「雰囲気」は7割の者が「明るい」と感じている。

「雰囲気」は「明るい」、「非常に明るい」との回答が7割、「上司からの指示」は「的確」、「非常に的確」との回答が8割で、職場環境には概ね満足していると考えられる。

問 職場環境についてどのように感じていますか。



(3) 仕事に対する意識

① 入庁前後でのイメージの変化は「思ったより業務量が多い」旨の回答が多数

入庁前後でのイメージの変化は、仕事については、業務の多様性と裁量幅の大きさについて記載されているものが多く、「業務量が多い」、「業務量に偏りがある」との意見が多数見られた。特に、総合土木職で「思った以上に忙しい」との意見が多かった。

職員や職場環境については、概ね好意的な意見であった。

問 入庁前と入庁後で、県の仕事や県職員に対してどのようなイメージの変化がありましたか。自由に記載してください。

【主な意見】

＜業務内容に関するもの＞

- ・想像以上に多様な業務があり、驚かされた。
- ・入庁前のイメージより自由に仕事ができるのだと感じた。

＜業務量に関するもの＞

- ・県職員に対する仕事の多さ等についてマイナスのイメージをかなり持つようになった。
- ・配属先によって勤務時間の差が激しい。

＜職員に関するもの＞

- ・堅い人が多いイメージだったが、そうでもなかった。
- ・優しい方が多くて良かった。

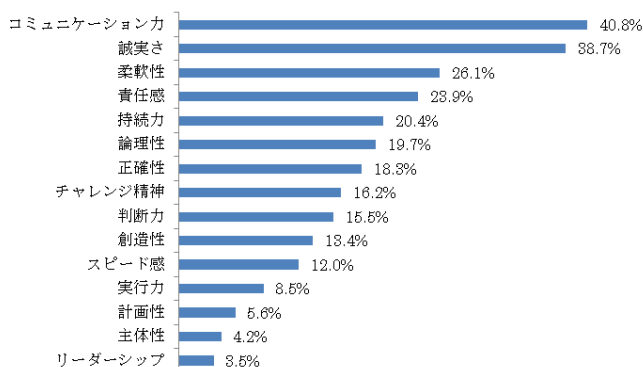
＜職場環境に関するもの＞

- ・思っていたより明るい雰囲気、過ごしやすい。
- ・思っていたより有給休暇が取りやすい。

② 自身の「コミュニケーション力」を重視して仕事をしたいと考える者が4割

仕事をするうえで重視する自身の資質・能力については、「コミュニケーション力」、「誠実さ」が4割。国家公務員が上位に挙げる「主体性」を挙げる者はほとんどいない。自身の資質・能力ではなく、人との関わりの中で必要とされる能力を重視する傾向が伺える。

問 自分のどのような資質能力を重視して仕事をしていきたいですか。(3つ選択)

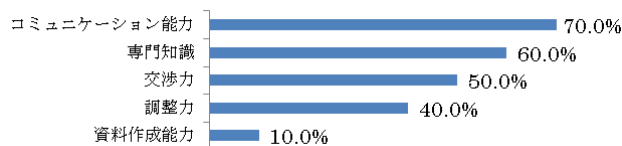
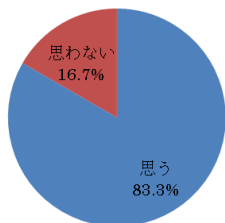


【国家公務員の意識】
「コミュニケーション力」が33.2%、「柔軟性」が28.8%、「論理性」が27.7%、「主体性」が27.0%、「誠実さ」が22.8%で上位。

③ 経験者採用者で「前職で培った能力・経験を生かしている」と考える者は8割を超える。

前職で培った能力・経験を生かしていると思うかについては、「思う」が8割。その具体的な能力・経験として、「コミュニケーション能力」との回答が7割となっている。

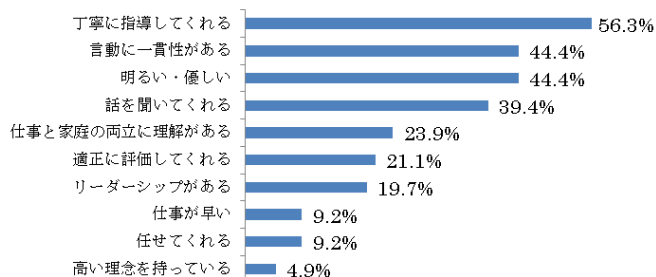
問 前職で培った能力・経験を生かしていると思いますか。(経験者の方のみ)



④ 求める上司のタイプは「丁寧に指導してくれる」、「言動に一貫性がある」、「明るい・優しい」が上位

どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいかは、「丁寧に指導してくれる」が6割で1位。「言動に一貫性がある」、「明るい・優しい」と続き、人柄を重視する傾向にある。一方、「仕事が早い」、「任せてくれる」、「高い理念を持っている」は1割以下である。

問 どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいですか。(3つ選択)



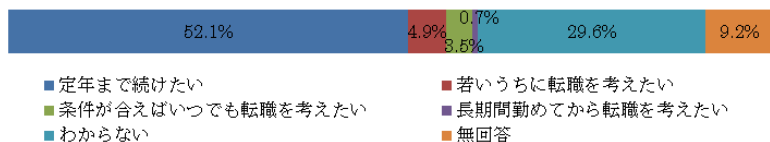
【国家公務員の意識】
「言動に一貫性がある」が50.1%、「丁寧に指導してくれる」が48.5%、「明るい・優しい」が33.5%。

(4) その他

① 「定年まで」県職員として働きたいと考える者が過半数

いつまで働きたいかは、「定年まで続けたい」が5割、「わからない」が3割。一方で、転職を考える者も約1割存在する。

問 県職員としていつまで働きたいと思いますか。



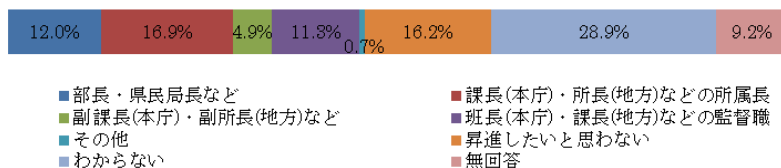
【国家公務員の意識】

「定年まで続けたい」が54.5%、「若いうちに転職を考えたい」が17.9%、「条件が合えばいつでも転職を考えたい」が7.6%、「長期間勤めてから転職を考えたい」が1.9%、「わからない」が17.4%。

② 自身が描くキャリアについて「課長(本庁)、所長(地方)などの所属長」以上の昇進を望む者が3割

将来の昇進は、監督職以上の役職を回答した者が5割。このうち「部長・県民局長など」が1割、「課長(本庁)、所長(地方)などの所属長」が2割となっている。

問 将来どこまで昇進したいと思いますか。



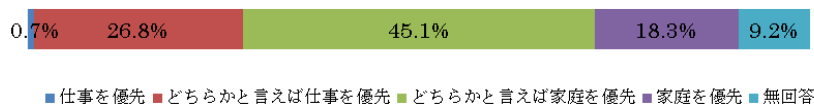
【国家公務員の意識】

「事務次官級」が18.7%、「本府省の局長級」が23.8%、「局次長・審議官級」が12.2%、「本府省の課長級」が27.3%。

③ 「家庭を優先」、「どちらかと言えば家庭を優先」が6割

「家庭を優先」、「どちらかと言えば家庭を優先」が6割、「仕事を優先」、「どちらかと言えば仕事を優先」が3割。国家公務員は逆に「仕事を優先」する傾向にある。

問 仕事と家庭のどちらを優先していきたいと思いますか。



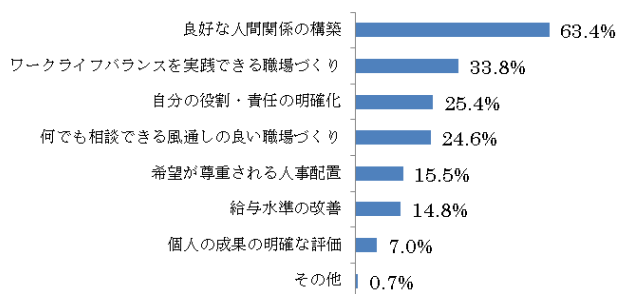
【国家公務員の意識】

「仕事を優先」が6.0%、「どちらかと言えば仕事を優先」が56.4%。「どちらかと言えば家庭を優先」が32.7%、「家庭を優先」が3.6%。

④ 「働きがい」を高める方策は「良好な人間関係の構築」が6割

働きがいを高める方策として、「良好な人間関係の構築」との回答が6割と半数を超え、ワークライフバランスの実践も重要な要素として捉えられている。「給与水準の改善」など勤務条件の改善より、人間関係や職場環境を重視する傾向にある。

問 働きがいを高めるために有効な方策は何だと思いますか。(2つ選択)



⑤ 人材確保の取組は「職場全体の超過勤務の縮減を図ること」が6割

人材確保の取組として、「職場全体の超過勤務や深夜勤務の縮減を図ること」との回答が6割と、半数を超えている。超過勤務の削減や多様な働き方の推進など、職場環境の整備が有効と考えている者が多い。

問 どのような取組を進めると、公務の魅力が向上し、人材の確保に繋がると思いますか。(複数回答可)

